

書面照会(メイン機能、施設規模・整備手法)の回答一覧

(1) 望ましいと考えるメイン機能

■ホール（劇場）を選択した方のご意見

No	ホール（劇場）を選択した理由
1	効果的なアリーナを選択した場合、近隣地を取得しなければならず、また、来場者の動線においても空中通路など、再開発が必須となる。そうすると完成が30年近く期間が必要であり現実的ではない。
2	市民の使いやすさや、受け入れるコンテンツの豊富さを考えるとホールに可能性を感じます。アリーナに比べてメイン機能以外の機能を装備する余裕があり、図書館や子供施設と合わせて複合化することで多くの人が日常的に使える施設になることを期待しています。 ホールの場合、10000人クラスのものが良いと考えますが、敷地面積が足りないことと、5000人だとしても駅からの動線や周辺への経済効果に疑問あります。
3	敷地面積を考慮すると、ホールが望ましい。 市民が、より頻繁に利用する機会が多いと思われる。
4	現状、ホールの利用需要が非常に高く、使用率の高さからもその必要性が明確に示されています。もしアリーナに変更してしまうと、必要な場面で使用できず支障をきたす恐れがあります。 また、アリーナは仮に一万席規模とした場合でも比較的小さく、近隣のより大規模なアリーナと用途が重なり、利用機会を奪われる可能性も考えられます。 そのため、ホール（劇場）として整備することで、現状の需要を十分に満たし、今後も継続的に活用できる施設となると考えます。
5	①今までに何か年も宙ぶらりんの状態が続き、何度も検討会を組織しては結論が曖昧。そのまま検討保留した過去があり、時間ばかり過ぎてきているから。時間と会議費を削減し、早く着工にこぎつけるため。（越谷市長。やる気あるのの声が聞こえる） ② 用地買収や都市計画の計画変更（高さ制限や容積率の変更や土地の使用基準変更等）をせずに、着工から、完工までの時間を極力短くするため。
6	アリーナは、市民がこれまで利用してきたホールの機能を代替することはできず、優先順位は低い。アリーナについては、財源を確保できるのであれば、あるいは民間主導で建設できるのであれば、別途検討するべきである。
7	選択上、重視すべき事項 1. 稼働率 ホールとしての稼働率は従来と同様に期待できるが、アリーナの稼働率は不明（ホールに比べると低い可能性がある） 2. スペース面 アリーナ向けにはスペースが小さすぎる。 3. 整備費 ・越谷市の負担額 ・ホールであれば、リノベーションの可能であり、費用を抑えられる。 4. 市民の利用性 市民が利用しやすい施設であること。 5. 利用料 従来の利用料と同程度か、アップしても大きな増額にならないこと。

No	ホール（劇場）を選択した理由
8	<p>●アリーナ建設が望ましいと考えるが、1万席規模の場合の敷地の確保が厳しく、拡張の手立てを考える予定はないとのことであり、5千席規模のアリーナでは音楽関係イベントの開催の忌避性が指摘されるのであれば、アリーナ建設はリスクが高いと判断したこと、及び越谷アルファーズが独自にアリーナ建設に踏み出していることなどを勘案した。</p> <p>●MICE機能をはじめ、市民に利用される施設を設置するに当たっては、ホールの方がアリーナと比較して面積（容積？）の制約が少なく柔軟に機能を設計できると考えた。</p>
9	<p>（1）で記載のとおり、MICE機能の拠点施設としては、相対的にホール（劇場）が望ましいと考えました。</p> <p>アリーナ案も魅力的ですが、規模としてはどうしても周辺地域との比較優位性から、10,000席が不可欠と考えられますが、この立地・敷地から考えると無理があると判断しました（混雑・交通渋滞・騒音等）。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の文化活動の拠点となっているサンシティホールは、設立以来多岐に渡る市民参加型の企画を催し、多くの市民が参加してきた。そしてその参加者が現在、各地域において活動を深化させ、他の市民に波及させている。 ・幼稚園・小・中学校・高校・大学等の学校の行事や一般の文化・芸術のイベントにも多く利用され8割以上の稼働率を示している。 ・国内外の著名なアーティストを招聘し、安価で質の高い芸術を提供しているので、低迷しているといわれるクラシックでも完売の様相を呈している。逆に都内からサンシティに足を運ぶ人も見られる。 ・市民が利用しやすく、あらゆる文化・芸術活動の拠点としては、「ホール」でなければならない。
11	<p>アリーナだけでは運営が難しいが、敷地規模からみて複合化させることも難しそうと判断される。</p>
12	<p>市民の為（使用しやすい）</p> <p>※ホールの使用は常時している。アリーナの使用率が低い。</p> <p>※ホールの入場人数（常時）とアリーナ（例えば5,000人～10,000人）が帰宅時に寄る（飲食店等）キャパシティが無いのではないかな？</p>
13	<p>現時点で協議していく中で、レイクタウンに「アリーナ」ができるという話が出ていの中で、隣の駅に同じ「アリーナ」を作る意味がないので。</p> <p>もし、「アリーナ」がレイクタウンにできないのであれば、乗降客が多い南越谷・新越谷に「アリーナ」を作り、ビジネスや商業の拠点として街づくりを始めればよいと思っている。という、消去法での選択。</p>

■アリーナを選択した方のご意見

No	アリーナを選択した理由
1	<p>ホールが必要ないからアリーナではありません。ホールもアリーナも必要施設です。</p> <p>ただ、この南越谷地区に必要なものとして複合施設（アリーナを含む）及びホテル、バスターミナル、飲食施設及び官の施設（支所・保育施設・図書館等だと考えています。</p> <p>現在ホールが高稼働しているにも関わらず、地元ではにぎわいに寄与していないと考えています。訪れる人の数だけではなく、質が重要です。その為、一帯を再開発し機能を高めた方が多くの人を訪れる機会が増えにぎわいづくりに寄与します。</p> <p><u>この審議会からの提案又は参考意見として、学生が人生に1度の体験の場としてのホールが継続使用</u>できる方法として、他所にホールを先に新設することを記すべきと思います。</p> <p>この一帯の開発には10年近い年月が必要と思われます。問題としてアルファーズのプレミアムリーグへの昇格の期限問題がありますが、一案としては総合体育館の改修でアリーナを造ることで解決できます。総合体育館も30年以上たちいずれにしても近々に改修の必要性はあると考えられますので、南越谷へアリーナが出来ても、100%二重投資とは為らないと思いますし、同時活用の道もあります。</p> <p>越谷市全体の配置・効率を考えての構想が必要と考えますが。</p>
2	<p>ホールは建替える場合4～5年の空白期間が発生するので使用者に対する影響が発生するので、他の場所へが望ましい。</p>
3	<p>兼ねてからお話している内容ですが中核都市としてのランドマークを構築することにおいて、他市、他県より、人が集合できる機能性とスポーツを通じて（バスケットボール）その魅力発進が経済効果を引き起こし、市税においても多くの財源確保につながる。将来の都市構想を今だからこそ考えるべきである。</p>
4	<p>①南越谷駅という交通の要所に位置する立地を最大限に活かすべきです。市民サービス中心の施設ではなく、外から人を呼び込み、経済効果を生み出す“稼ぐ施設”を整備することで、越谷市全体の活性化につながります。市内にとどまらず、周辺地域からも集客できる拠点とするべきです。</p> <p>②越谷アルファーズが計画しているレイクタウンでのアリーナ構想が依然として不透明である以上、確実に実現可能な南越谷にアリーナを設けることが現実的です。レイクタウンの商業色が強いエリアよりも、交通アクセスと都市機能のバランスが取れた南越谷こそ、プロスポーツ・文化イベント双方に適した立地といえます。</p> <p>③加えて、南越谷は駅周辺再開発の好機を迎えています。アリーナを中心とした新たなまちづくりを進めることで、老朽化した建物の更新、地域雇用の創出、若年層の流入促進といった多面的な効果が期待できます。単なるイベント会場ではなく、日常的に人が集い、越谷の新しい顔となる拠点づくりを目指すべきです。</p>

5	<p>理想としては、南越谷にアリーナ、レイクタウンに現サンシティに代わる規模のホールを新設することが最も望ましいと考える。南越谷は鉄道アクセスの利便性が高く、広域から人が集まりやすい拠点であり、スポーツ・イベント・地域交流の中心地として、多用途に活用できるアリーナが最適である。</p> <p>ただし、アリーナの整備は越谷市全体の公共性・地域経済・市民利用のバランスを軸に進めるべきであり、特定クラブを中心に据える発想ではない。</p> <p>一方、レイクタウンは既に高い集客力を持ち、その来訪者をいかに越谷にとどめ、関わってもらうかを考えると、音楽・演劇・コンベンションなどを開催できる 2000 席規模のホールを整備することが有効だと考える。これにより、文化と経済の両面で市外からの来訪や消費を呼び込み、地域全体に新たな活気と経済効果をもたらすことが期待できる。</p> <p>もしレイクタウン側にアリーナを整備する場合、非常に高いポテンシャルを持つ南越谷が埋もれ、レイクタウン周辺のみが活気づいてしまう懸念がある。</p> <p>市全体の均衡ある発展のためにも、南越谷を中核拠点として位置付けるべきである。</p> <p>ただし、現実的にはレイクタウンでアリーナ計画が先行している状況のようなので、南越谷がホール機能となる場合でも、最低 2000 席規模の建替えとし、将来の発展を見据えた都市型ホールとして再構築することが必要だと考える。</p>
6	<p>市の財政負担がイニシャルコスト、ランニングコストともに最も少ない為。</p>

(2) 望ましいと考える施設規模・整備手法

■ [A] ホール：1,675席（現状維持）・大規模改修を選択した方のご意見

No	規模・手法を選択した理由
1	越谷市の財政面を考えると、ホールの大規模改修が適当と思われる。 大きな箱ものを作ったが良いが、それが将来の市の財政に負担となり、他の市民サービスをおろそかにすることにつながりかねないからである。
2	①財政面や工期に余裕があれば、建て替えによるホールが望ましい。 ②しかし、現在の越谷市の財政面、今後に市立病院や公共機関、学校等の建て替えや改築等が行われることを見越して、少ない予算額で、工期が短く、早く安心して活動できる拠点が出来るから。（越谷市民からも、何年かかったら結論出る？の声がある） ③また、ここ数年の県内のホール関係（大宮ソニック、所沢ミューズ、さいたま市文化センター、川口リリアなど）が予算や工期等の関係から全て大規模改修であること。 ④今後、諸般の事情から、工費が安くなることは期待できないから。 ⑤バスケットの国際大会は、数年前に日本で開催していることから、しばらくは国際大会の招致は期待できず、現状の一試合当たりの観客動員数も1000人程度だから。 ⑥東京近郊には、埼玉スーパーアリーナ、横浜アリーナ、幕張メッセ、東京ビックサイト、代々木体育館、南船橋等10000人を軽く超える人数のアリーナがあり、稼働的に過多だから。（羽田や成田アクセスに劣る、越谷にアリーナを作る必要感が無い。）
3	人口が減少するなかで、新築また座席数の拡大はリスクが大きい。越谷市においては、病院の建て替えなど他の施設整備があることから、支出が最も少ない大規模改修とするべきである。建て替えや新築を最終的に負担するのは市民であり、市民の負担を可能な限り抑制することが重要である。
4	選択上、重視すべき事項 1) 利用率 2) 整備費用 3) 整備のための休止期間 4) 20年間の利用価値 5) 余剰地面積
5	一昔10年、今では死語である。社会全般急激に多様化し、AI（人口知能）を便利に活用、かと思えば人間が歩みより仲間と思うようになって来た。 人口減少、少子高齢化による社会構造の変化。此の様な時勢に30年、50年の先を想定する事は不可能である。 特に国、地方の借金財政を考えた場合、健全で厳正なる運営を望む。
6	※大規模改修と建替えの両案悩ましいですが（改修30年、建替え80年）費用の為改修です。 ※30年後建替え（経済状況が不明）の為
7	A案にした理由 ・市の財政的判断 ・市民が利用しやすいかどうか 座席数が多いと使用料が高くなり、利用しにくくなる。 市民のイベントで2000人規模の集客イベントは、あまりない。 ・大規模改修と商業施設（民間）の利用をセットで考えて、実現したい施設を商業棟に組み込んでもらおう。大木を有効活用し、余剰地を公園にする。

■ [C] ホール：2,000席（拡大）・建替えを選択した方のご意見

No	規模・手法を選択した理由
1	行うのであれば中途半端な施設ではないものを希望します。建替えできちんとしたレイアウトを行うべき。
2	<p>2000 席のホールは首都圏で需要が多いことから可能性を感じます。上にも書きましたが、ホール単体ではなくホール、図書館、子供施設などを合わせた複合施設にすることを強く推薦します。そのため大規模改修より、それら複合的なプログラムを行うことをちゃんと考えた新しい施設を作ることが良いと思います。</p> <p>より、多くの市民の方に利用してもらえる施設を作ることが、大切な税金を使う意味になると思いますので、ホールを含めた複合施設に合わせて広場や公園を作ること。希望の高いホテル（民間施設）を合わせて計画すべきだと感じます。</p>
3	<p>B 施設と C 施設の建て替えには、いずれもほぼ同程度の費用がかかる見込みである。一方で、A 施設と B 施設の機能や規模には大きな差がないため、多額の費用をかけて建て替えを行うよりも、大規模改修で対応するのが妥当と考える。</p> <p>ただし、サンシティは「越谷のにぎわいを取り戻す」という目的のもとで今回の会議が発足していることから、現状とほぼ同規模の 1,675 席ではなく、2,000 席へと拡大することで、より多くの来場者を見込むことができる。</p> <p>集客力の向上は、駅周辺の商業施設や店舗の活性化にもつながり、地域全体のにぎわいの創出に寄与すると考える。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ●大規模修繕とすると、躯体をそのまま利用することがメインとなり、制約が生まれて柔軟に機能の追加が図れない。街の賑わいを取り戻すための取り組みが、中途半端ではよくないと考えている。 ●リノベーションの場合、残すところの見た目の古さは隠しようがないのではないかと思う。また、商業棟だけを解体して建て直すとしても、文化施設棟と商業棟の良くないコントラストが現れてくるだろうし、フルリノベーションとなると建て替えとそう変わらないのではないか。 ●フルリノベーションでも建て替えでも閉鎖期間はそう変わらないだろうし、利用者に対して迷惑をかけることになるが、建て替えによる新しい施設で気持ちよく利用できる方が今後のためにはよいのではないか。解体・建設方法には、順次解体しながら解体しない部分は運営を続けるような方法がとることができれば、閉鎖期間は短くなるだろう。 ●リノベーションの場合、残した部分に不具合が出やすいということは聞いたことがあり、都度補修をしていくとなるとコストプッシュ要因になってしまう。さらに、20 年後に改修する予定なので、その分も勘案すると長期的にはあまり財政負担的に変わらないのではないかとすら思える。 ●稼働率が良く、大ホールのイベントが満席のことが多いということであれば、そのイベントを見たいという層がもっといるはずで、30%程度の増設（1,600 余席から 2,000 席程度）では空席が目立つようなことはないのではないかと考える。見たい方々に門戸を開くと考えた方がよいのではないかと思う。 ●市民参加の懇談会でのテーマ～越谷サンシティの『未来を“ソウゾウ”する』～において出された模型を用いた内容をみても、とてもリノベでは対応しきれない。であれば、一体的に開発することに意義があると思う。 <p>これ以上にも様々な要因は考えられると思うが、上記の理由から敷地全体を一括で再開発した方がコスパ及びタイプもよいと考えられる。</p>

No	規模・手法を選択した理由
5	<p>南越谷という、越谷を代表する都市核に必要な機能は、複合的MICE機能（コンベンションシティ）だと考えています。その中核施設の一つとして2,000席以上のホールが望ましいと考えました。</p> <p>なぜMICEなのか。その根拠は、下記の通りです。</p> <p>①中核市としての最低限の機能</p> <p>越谷は、全国62ある中核市の中でMICEの受入ができない数少ない都市です。中核市のゲートウェイにあたるサンシティエリアには、「都市の品格」に相応しいMICE機能が不可欠です。大きな会議場（2000席以上）とともに、コンベンション&展示スペース、ホテル、関連商業施設などが必須です。</p> <p>同じ中核市である長崎市や倉敷市のような「コンベンションシティ」を目指して欲しいと思います。</p> <p>②文化都市としての都市の「品格」</p> <p>「文化創造都市」として、国際交流も視野に入れたMICE機能が不可欠です。昭和58年（1983年）の文化都市宣言以来、越谷には、ミュージアム（博物館・美術館等）やホテル、コンベンション施設がありません。中核市としての「品格」のもう一つの機能が、これら国際交流も視野に入れた文化創造拠点です。</p> <p>但し、ミュージアム機能としては、学校教育・社会教育や観光などとも連動させられる「デジタルミュージアム」も含めた機能を本事業敷地内で検討して欲しいと思います</p>
6	<p>大規模改修に関する技術的検討が不十分で費用など判断ができない部分が多い。民間の協力を得つつ建て替えをする場合は経営面からみてある程度の規模が必要。</p>
7	<p>「ホール2000席（拡大）」について、特に大きさなどに主旨はなく、人と収入と稼働率を考慮しての選択。</p> <p>働く人の動きやすさ、収益での経営状況、集客しやすい席数とイベントの作りやすさ、などを考慮しました。</p> <p>地球と人に優しいサンシティを目指してほしい。</p> <p>「地球にやさしい、人にやさしい、<small>ジェントル</small> 穏やかな調和、<small>ハーモニー</small> サンシティ」</p>

■ [D] アリーナ：5,000席・新築を選択した方のご意見

No	規模・手法を選択した理由
1	<p>越谷市が整備を検討するアリーナは、5,000 席規模が最も現実的で効果的です。</p> <p>第一にBリーグをはじめとするプロスポーツ公式戦の開催基準を満たし、越谷アルファーズの本拠地として継続的な試合開催が可能になります。これは「越谷＝スポーツのまち」というブランド確立につながります。</p> <p>第二に、南越谷駅という優れた交通アクセスと市街地環境のバランスを考えると、5,000 席は安全面・運営面で無理のない最適規模です。</p> <p>第三に、コンサートや企業イベントなどにも対応でき、運営採算性と多目的性を兼ね備えています。大規模すぎず、小規模過ぎないことで、経済効果・集客力・財政負担のバランスが最も良い規模といえます。</p> <p>加えて、災害時には避難所や救援拠点としても機能し、平常時のにぎわい創出と非常時の安心確保を両立できます。</p>
2	<p>現実的かつ持続可能な運営を考えると、5,000 席規模のアリーナが最も妥当だと考える。</p> <p>市民利用と興行利用のバランスを取りやすく、民設民営での採算性も確保しやすい。</p> <p>また、アリーナ以外の機能や空間も充実させなければ、多くの市民が無関心のままとなってしまう。日常的に立ち寄れるカフェ、子ども向けスペース、地域イベントなど、生活に根ざした仕掛けを組み合わせることで、市民にとっても身近で誇れる施設となる。</p> <p>この規模であれば、スポーツイベントに限らず、コンサートや企業イベント、地域行事など多目的な活用が可能であり、越谷全体のにぎわい創出と経済波及効果の両立が期待できる。</p> <p>一方で、10,000 席クラスは魅力的ではあるが、敷地条件・交通環境・採算面から見て現実的な整備・維持が難しく、民間事業者が参画しにくいリスクがあると考え</p> <p>したがって、5,000 席アリーナを軸に、越谷の都市ブランドを高める現実解として整備を進めるのが望ましい。</p>
3	<p>市の財政負担（イニシャルコスト、ランニングコスト）が最も少ない。</p>

■ [E] アリーナ：10,000席・新築を選択した方のご意見

No	規模・手法を選択した理由
1	<p>私は全国から越谷に人が来てほしいと思っています。</p> <p>複合施設の10,000席は様々有る団体が全国大会や会議を開催するための最低条件で有ると思います。その為の付帯施設ホテルの整備も重要と思っています。</p> <p>Bリーグの観戦にも関東近隣には1万人を動員するチームが有り、その観客に占領される事なく越谷のファンも十分に入れる席数が必要です。アルファーズの収益にも寄与すると思いますしBリーグの理念にある地域貢献に寄与します。現在では駅前スタジアム等が多くなり、施設への来客の足も公共交通機関の利用が選択肢となって居ますので駐車場や交通混雑への懸念は解決できると考えます。</p> <p>沢山の人が来ることは地元の賑わいに寄与するし、今の南越谷の負の一面も変化することが期待できます。越谷市は健全財政状態とお聞きしています。ただ、28年間新規案件はなく、健全財政状態のときにレイクタウンのように20年後30年後に市の財政にも寄与する施設が必要だと思います。人口減少が顕著に成ってからでは遅いです。</p> <p>出来ない理由を探す前に、少しでも可能性を追求する姿勢を市に望みます</p>
2	<p>サンシティの場所は非常に大切な場所であるがゆえ、ホール棟のみならず商業棟を含めた総合一帯開発が必要と考える。東武線改札口を含めた周辺の総合開発が望ましいと考えます。</p>
3	<p>収益性が高いこと。又、多機能な構造であれば多面的にその価値を生み出す。採算を考えて、又立地条件としてポテンシャルが非常に高い。</p>

※○以外を記載された方については、最も支持していると想定される選択肢を記載しました。

(△と◎が記載されていた場合には◎の選択肢とする等)